

I 事務事業基本情報

総合計画統括CD	03 02 05 01	重点政策分類	教育	所管部課	教育部学校教育課
事務事業名	地域ぐるみの学校安全対策事業			担当課長名	安藤 隆
総合計画分類	CD	名 称		作成者名	上田 麻由
政策	03	教育・生涯学習		担当歴	平成 29 年度から
施策	02	生きる力を育み、自信と活力にみちた教育の実現		電話(内線)	506
基本事業	05	家庭や地域の教育力の向上と学校を支援する体制づくりの推進		事業年度	開始年度 H22 終了(予定)年度 -
H29会計区分	1	一般会計		新継区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
予算科目	10	教育費		経費区分	<input checked="" type="checkbox"/> 政策 <input type="checkbox"/> 投資 <input type="checkbox"/> その他
項	2	小学校費		補助・単独区分	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
目	1	学校管理費		根拠法令・個別計画等	事業実施の根拠となる法令、条例、規則、要綱及び個別計画を全て記載
予算書上の事務事業名	スクールガードリーダー巡回指導経費				

II 事務事業概要

対 象	誰を、または何を対象とした事務事業なのかを具体的に記載		事務事業の執行方法をチェック						
	小学生		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担金 <input type="checkbox"/> 市民と協働 <small>(委託・交付先等:)</small>						
目 的	当該事務事業が何をねらいとし、対象をどのような状態にしたいのか。また、どのような成果を目指しているのかを具体的に記載								
	子どもたちが安全で安心して教育を受けられるよう、学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、学校、家庭及び地域の関係機関・団体が連携を図りながら、地域社会で子どもの安全を見守る体制を整備する。								
	成 果	成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度目標値
		「目的」がどの程度達成されたか(成果)を測定できる適切な指標(数値等)を最低1以上設定して記載							
①	不審者の学校敷地への侵入	回	0	0	0	0	0	0	
②	登下校時の事故	回	1	2	1	0	0	0	
③									
成果指標の考え方・計算根拠等	「伊達市スクールガードリーダー委嘱取扱要領」に基づく。								
総合計画の成果指標に係る活動成果	重点政策(食・教育・生きがい・環境)については、総合計画「Ⅲ-2重点政策」(P16~P23)で定めた成果指標について記載								
手 段	上記目的を達成するために、どのような方法で事務事業を実施したのかを具体的に記載								
	市内8校の小学校を年間88回巡回し、下校時の学校周辺や通学路の巡回指導を行う。								
	活動実績	活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度目標値
「手段」として提供した行政サービスや活動の実績を指標(数値等)に表して記載									
1	巡回指導	回	88	88	88	88	88	88	
2									
3									
活動指標の考え方・計算根拠等	「伊達市スクールガードリーダー委嘱取扱要領」に基づく。								
事務事業の現状と課題	事業の現状と事業を進めていくうえで課題となっていた事項を記載								
	平成22年度から事業費の負担割合が国1/3、道1/3、市1/3となり、継続して実施するために財源措置が必要となった。学校安全の推進に関する計画(H24.4.27閣議決定)にあるとおり、生活安全、災害安全、交通安全への取組の必要性が高まってきている。								
改善点	上記の現状と課題に対し、当該年度の重点取組み事項、設定した目標を具体的に記載								
	登下校時の安全に関する周知指導の徹底。								
	上記の重点的取組み事項、設定した目標に対する改善内容及び検討(実施)中の改善内容及び当該年度を記載								
(平成29又は30年度)既に改善済	<input type="checkbox"/> 事業内容	平成27年9月の伊達市通学路安全推進会議において策定した「伊達市通学路交通安全プログラム」に則り、今後も通学路安全推進会議において、通学路危険箇所の確認と対策について協議を行うとともに、学校とスクールガードリーダーの連携をより密にし、巡回指導を行う予定。							
	<input type="checkbox"/> 投入経費								
(平成30年度)改善を検討中(又は実施中)	<input type="checkbox"/> 人員の配置								
	<input type="checkbox"/> その他								

平成 29 年度実施事業		重点政策分類		教育		所管部課	教育部学校教育課	
総合計画統括CD		03	02	05	01	担当課長名	安藤 隆	
事務事業名		地域ぐるみの学校安全対策事業				CD	作成者名	上田 麻由
						01		

Ⅲ 投入経費 (input)

投入経費 区分	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
直接事業費 (A) 千円	357千円	357千円	358千円	363千円	363千円	382千円
国・道支出金 千円						
地方債 千円						
その他特財 千円						
一般財源 千円	357千円	357千円	358千円	363千円	363千円	382千円
参考人件費 (B) 千円	55千円	58千円	58千円	57千円	57千円	58千円
一般職員 千円	55千円	58千円	58千円	57千円	57千円	58千円
一人当たり年間平均給与 千円	5,481千円	5,821千円	5,794千円	5,733千円	5,673千円	5,835千円
投入人員 人	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人
嘱託職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円	2,365千円	2,428千円	2,550千円	2,602千円	2,664千円	2,722千円
投入人員 人						
臨時職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円						
投入人員 人						
投入経費 C=(A+B) 千円	412千円	415千円	416千円	420千円	420千円	440千円
人件費比率 D=(B/C) %	13.3%	14.0%	13.9%	13.6%	13.5%	13.3%

Ⅳ 一次評価

評価の視点	評価	判断理由 (左記の評価を選択した理由を具体的に記載)
観点別評価	目的妥当性 <input type="checkbox"/> 法律等で義務付けられている <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	今後も市が主体または関与して事務事業を行っていくことは妥当か？ (法律等名称：伊達市スクールガードリーダー委嘱取扱要領) 市が子どもの安全確保に取り組む必要がある。
	有効性① <input checked="" type="checkbox"/> 目標とする成果が出ている <input type="checkbox"/> 少し成果が出ている <input type="checkbox"/> 思うように成果が出ない	成果が出ているか？ 児童の下校時の安全確保につながっている。
	有効性② <input checked="" type="checkbox"/> 大きく向上できる <input type="checkbox"/> 向上できる <input type="checkbox"/> 向上は難しい	成果を向上させることはできるか？ 学校や通学路の危険箇所を発見した場合、随時、校長へ報告している。
	効率性 <input type="checkbox"/> 経費削減は可能 <input checked="" type="checkbox"/> 経費削減は難しい	妥当な経費で事業が執行されているか？または、成果を落とさずに投入経費を削減することはできるか？ 巡回指導 1時間あたりの謝礼金額が決まっており、経費の削減は巡回指導回数の減に直結する。
	公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	事業が一部受益者に偏っていないか？受益と負担のバランスは妥当か？ 通学路のある学校については、万遍なく巡回できている。

今後の方向性	方向性の判断理由 (左記の方向性を選択した理由を具体的に記載)
総合一次評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後も学校敷地や通学路における子どもの安全確保のため、巡回は必要である。 平成27年度から警察OBにスクールガードリーダーを委嘱、学校敷地内や通学路の防犯を重視している。

担当課長コメント	事業の進捗状況及び今後の展望等について記載
	学校敷地や通学路における子どもたちの安全を確保するため、学校と連携しながら継続的に事業を実施する必要がある。 また、今後は小学校の統合により小学生がスクールバスを利用することとなるため、バスの運行経路や乗降場所周辺の防犯並びに交通安全上、危険が予想される箇所をきめ細かに巡回し、安全確保に努めていく必要がある。

※以下、事務事業所管課においては記入しないでください。

(伊達市事務事業評価シート)

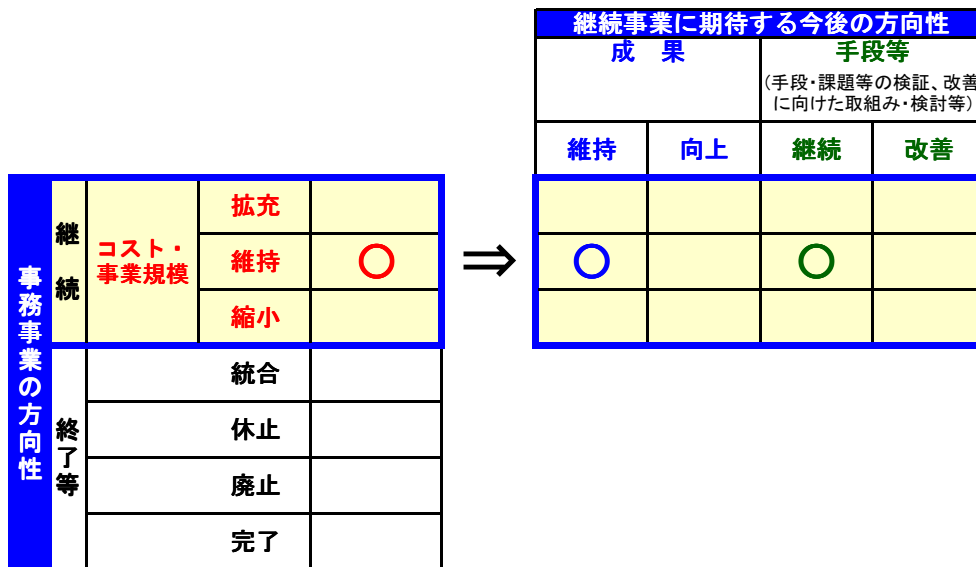
◆ 事務事業評価会議の検討内容

平成 29 年度実施事業	総合計画統括CD	03	02	05	01	重点政策分類	教育	所管部課	教育部学校教育課
事務事業名	地域ぐるみの学校安全対策事業					事業CD	01	担当課長名	安藤 隆
								作成者名	上田 麻由

1 二次評価

評価項目	評価の視点			評価
	評価の凡例	評価項目の求める水準を達成している。	○	
観点別再評価	目的妥当性	今後も市が主体、または関与して実施することが妥当である。		○
	有効性①	成果が出ている。または、事務事業の目的が達成されている。		○
	有効性②	評価の凡例	大きく向上できる	○
			向上を期待できる	△
	効率性	妥当な経費で事業を執行している。		○
公平性	受益と負担のバランスは適当である。		○	
事業ランク評価	総合計画上の視点	総合計画における当該事業の位置付けが明確であり、かつ本計画の施策の推進に貢献度が高いと認められる。		○
	事業の必要性の視点	既に明らかとなっている課題や、今後予想される課題の解消に向けて、当該事業の必要性が真に認められる。		○
	事業効果の検証の視点	事業の効果が客観的に検証されている。または、事業の効果が現れていない場合にあっても、その原因を分析し、有効な方策が検討または実行されている。		○

2 二次評価に基づき期待する今後の事務事業の方向性



3 その他 (特記事項・評価に関する補足事項等)

地域ぐるみで子どもの安全を見守ることは重要な取組であることから、今後も学校及び地域の関係機関や団体と連携を図りながら、学校や通学路における子どもの安全確保に努めることを期待します。